

3. 遺物

(1) 装身具

(ア) 貝輪—古墳時代に於ける九州出土の貝輪—

吉 武 牧 子

古墳時代の遺跡より出土した貝輪は、南海産大型巻貝製のものが主体をなし一部に二枚貝製のものもみられる。ゴホウラ・イモガイ等の南海産大型巻貝製貝輪は、北部九州において弥生時代前期後半に出現し中期に盛行するが、後期以降その需要が減少する。しかしその系譜は金属製・石製釦に材質転換しながら古墳時代へと受け継がれ、5、6世紀には再び九州で流行する。一方二枚貝製貝輪は縄文時代の伝統を保つもので、古墳時代においては量的に非常に少なく、出土地域も限定される。

1. 南海産貝輪に関する諸説

これまで南海産大型巻貝製貝輪の研究は、主として弥生時代を中心に行われてきた。

三島格氏は九州と南島を中心に分布する南海産貝輪を集成し、総括的考察を行った。⁽¹⁾三島氏は九州出土の貝輪が北部の弥生文化中枢地域に集中する点を指摘し、ゴホウラ縦切り（この段階ではこの種の貝がゴホウラと査定されてはいなかった。）が男性に、イモガイ横切りが女性に着装される傾向にある点にも言及している。また南海産大型巻貝製貝輪が「大陸文化を吸収した地域」である北部九州で、二枚貝製貝輪が「縄文時代的な遺習ともみられる習俗を温存する地方色の強い地域」である西北九州で、それぞれ用いられていた点も指摘している。また別稿で橋口達也氏と共に南海産貝輪の形態分類を行い、出土地名表を作成した。⁽²⁾

高倉洋彰氏は弥生時代貝輪を二枚貝製（A類）、単殻類巻貝製及び広田型ゴホウラ製（B類）、ゴホウラ・イモガイ製（C類）の3種に分類し、それぞれの着装習俗についての分析を行った。それによるとC類貝輪において「ゴホウラ製腕輪は男性に、イモガイ製腕輪は原則として女性に着装された」と述べ、しかも男性の場合「右前腕装着が原則であった。」としている。そして「C類貝輪の右前腕への着装は着装者の右手の使用を不能とすることに最大の意義のあることを示している」との考えを示している。また甕棺墓地内における貝輪着装者（司祭者）と被副葬者（政治的統率者）とが当初一致せず中期中頃以降一致する点に着目し、「司祭者の性格を兼ねることによって政治的統率者の力は一層強力なものとなり、それが後期社会を通じて共同体を分解させていく大きな要員となっている。」と述べている。

木下尚子氏は九州の貝輪をⅠ、Ⅱ類に分類し、広田遺跡出土例とイモガイ縦型貝輪を除いてⅠ類を高倉氏のB類に、Ⅱ類をC類にほぼ対応させている。⁽⁴⁾そして「弥生時代前期頃Ⅰ類貝輪は、二枚貝製貝輪地域を媒体として九州にもたらされた可能性は極めて高い。」としながらも、「これらの地域が次第に弥生文化に吸収されていく過程で、他の二枚貝製貝輪とともに影をひそめる。」と述べている。その一方で「弥生文化に接触したⅡ類貝輪は製品よりむしろ素材が着目され、弥生社会に適合する貝輪が独自に生み出される。弥生社会に混入したⅡ類貝輪は、この中で変容を受ける。こうして入手された南海産貝類は弥生社会の要求のままに形を変化させながら需要を高める。しかし弥生中期後半から後期にかけて貝輪に付随していた価値が変化するに至って、材質の転換が行われ、南海産貝輪の需要は一段落する」との見解を述べている。また別稿では、弥生時代の南海産貝輪の展開する地域を8つに分け、それぞれを《主体的地域Ⅰ》、《主体的地域Ⅱ》、《通過地域》、《波及地域》として性格づけを行った。⁽⁵⁾《主体的地域Ⅰ》は甕棺墓制の分布圏と重なり、「Ⅱ類貝輪的価値観を一貫して保持し貝輪装着数の増加という社会的要請に従い均一の形態変化をとげている点で、明確に特徴づけられる地域といえる。」と理解している。

橋口達也氏は貝輪着装者が体格的に恵まれ、また男性の右前腕装着がゴホウラの形態と男性右手の断面形態という自然上の制約もある点に注目した。⁽⁶⁾それにより貝輪着装者は「屈強な戦闘指導者であり、当初より司祭者的性格も兼ね備えていた」とみており、さらに「水田経営・土地開発・戦闘のなかでさらに強力となってきたこれ

ら指導者は、前期末頃共同体の一般成員から突出し、副葬品にみられる富をも集中する首長へと発展していった。」と考え、高倉氏とは異なる見解に立っている。

一方古墳時代の貝輪については、これまで検討を加えられることが少なかった。

齊藤忠氏は古墳時代の貝輪と石釧を集成し、両者の類似性からその系譜について「貝釧と石釧とが同時期的に存在してゐる場合もある以上、必ずしも石器時代のものからの推移でなく、甕棺或いは高塚墳墓の時代のものから展開したと考へることも不自然ではないやうである。」と述べている。⁽⁷⁾

木村幾多郎氏は従来広田型として一括されていたゴホウラ製貝輪を、大友型と古墳時代にその出土が限られる繁根木型に細分し、各々を再検討した。繁根木型貝輪については「(一)年代的には、五世紀後半代と考えられる。(二)地域的には、有明海周辺に主要な分布を見る。(三)貝輪の性格としては、着装埋葬されていたとするより、主に宝器的又は呪術的性格をもった副葬品として埋納されたと考えられる。(四)形態的には、外形約14×10～11×7 cmで、殻頂部まで取り入れ、前溝方向への伸長が大きい。内孔径は約7×6 cmで円形又は卵形をなす。大きさからいうと車輪石と類似した点がある。」とまとめている。

このように弥生時代に比べて古墳時代貝輪について総括的に扱った研究はなく、未だその分布、系譜については不明な部分が多い。本稿では新たに作成した出土地名表に基づき、古墳時代の貝輪について若干の検討を試みることにする。

2 貝輪の分類と分布

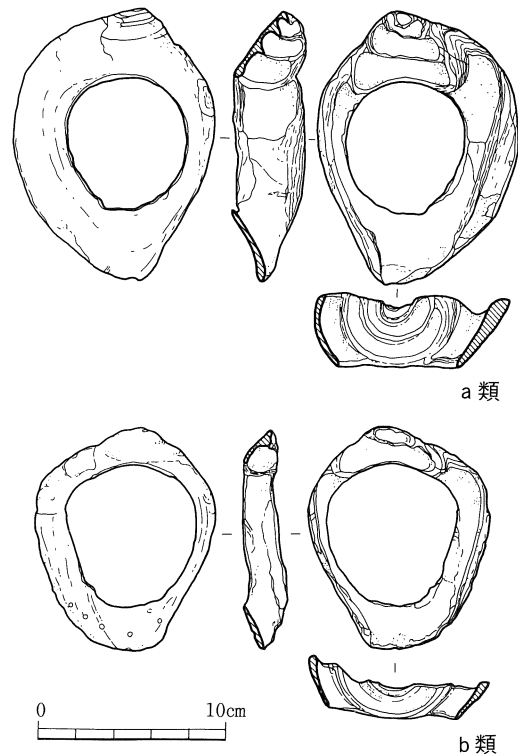
1) ゴホウラ製貝輪

ゴホウラ製貝輪は大きく広田型、金隈型、土井ヶ浜型、諸岡型、立岩型の5型式に分類され、広田型は更に大友型、繁根木型 a、b 類 (第460図) に細分される。⁽⁹⁾ 繁根木型は背面を広く利用した大型の縦型貝輪で、a 類は殻頂部まで完全に取り入れたもの、b 類は螺塔の次体層、螺層の一部を取り入れたもので a 類より小振りである。出土する遺跡は古墳時代の九州に限られ、現在までの所ゴホウラ製貝輪が出土した11遺跡の内、10遺跡の貝輪が繁根木型である。その分布は第465図に示すように有明海周辺部、豊後海部地域、遠賀川水系・筑後川水系流域 (北部九州内陸部) にほぼ集中するが、南九州においても2遺跡からの出土が確認されている。福岡平野を中心とする地域や西北九州沿岸部など、弥生時代に貝輪の盛行する地域は空白地帯となっている。

ただし、竹並の古墳から出土したといわれる貝輪のみ金隈型であり、これは鍬形石の祖形と考えられている。⁽¹⁰⁾ しかし出土した古墳を特定できないなど資料としての正確性に欠けるため、今回は出土地名表に記すにとどめる。

2) イモガイ製貝輪

イモガイ製貝輪は縦型、横型の2型式に分類される。⁽¹¹⁾ イモガイ横型貝輪は殻頂部を利用して平面形をほぼ正円に近い形態にしたもので、弥生時代中期中葉以降その数を増す。古墳時代の遺跡から発見されるのは横型のみであり、第465図に示した6地域すべてに分布しているが、ゴホウラ製貝輪と同様弥生時代に貝輪の集中する地域からの出土はない。



第460図 繁根木型貝輪実測図

(註8 木村幾太郎「所謂広田型貝輪の細分について」より転載)

3) その他の貝輪

ゴホウラ・イモガイ製以外の南海産貝製腕輪では、オオツタノハ製とみられるものが発見されている。オオツタノハ製貝輪は殻頂部を擦り落とした後、肋をよく残しているもの、全面を研磨するもの、放射状に研磨を施すものの3種類がある。霧島山麓周辺部の2遺跡からのみ出土しているが、はっきりと貝種の同定かなされたわけではなく、詳細については不明である。

二枚目製貝輪は豊後海部地域、霧島山麓周辺部の各1遺跡から出土している。これらは弥生時代に南海産大型巻貝製貝輪の流入していない地域であり、その意味では縄文時代の伝統を残しているとも考えられる。

3 地域別検討 (第461図参照)

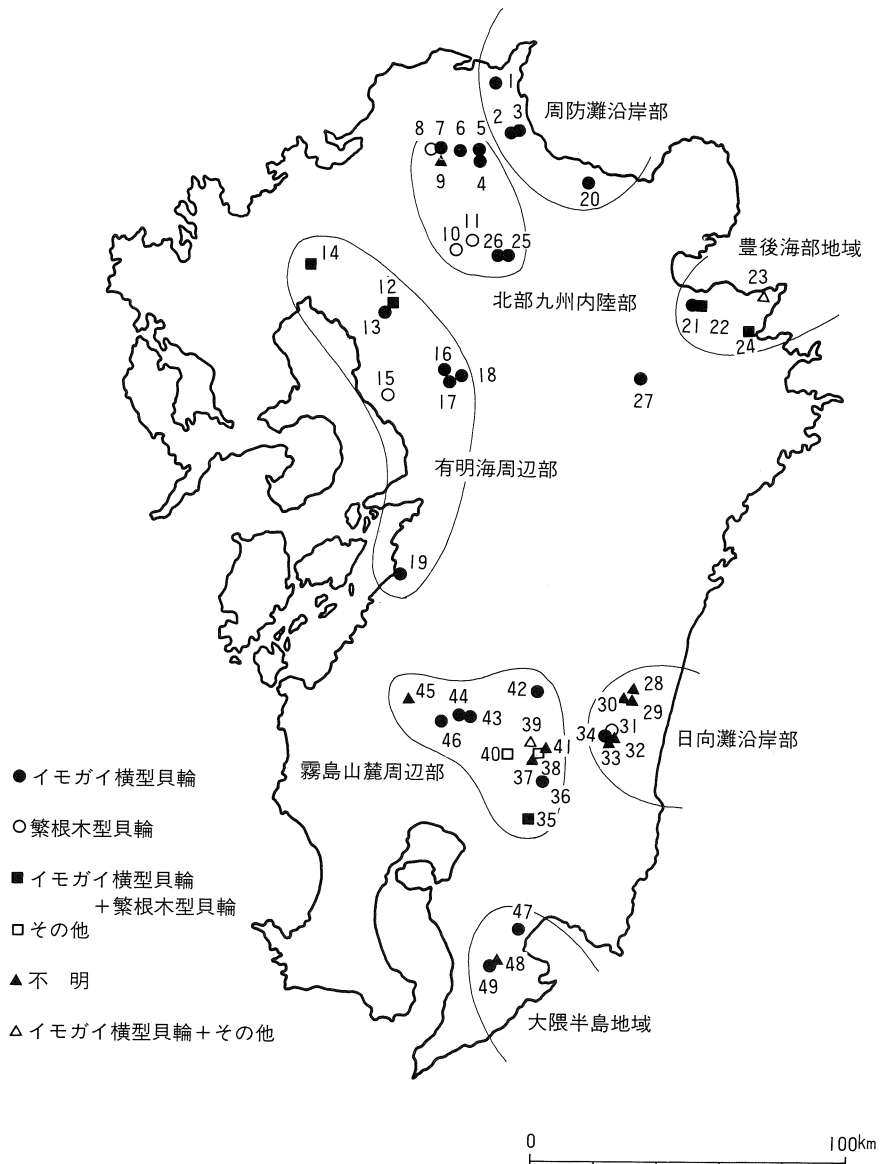
1) 周防灘沿岸部

この地域では、下津八丁目、馬ヶ岳、竹並、上ノ原の各横穴墓群からイモガイ横型貝輪が発見されている。竹並横穴墓群は、調査、報告されただけでも948基にも及び、更に破壊された横穴墓、未調査の横穴墓を含めると総数1000基を越える一大横穴墓群となる。貝輪が出土したのは6世紀中頃～7世紀初頭の6基である。上ノ原横穴墓群でも5基の横穴墓から貝輪が発見されており、62号を除いてほぼ竹並の年代と重なる。他の横穴墓も同様の年代におかれており、この時期の横穴墓被葬者とイモガイ横型貝輪との結び付きを伺うことができる。

2) 北部九州内陸部

この地域は更に遠賀川水系流域、筑後川水系流域の2つに分けられる。

遠賀川水系流域では、狐塚古墳群、轟尾横穴墓群、狐ヶ迫横穴群、岡ノ浦横穴、櫛山古墳、漆生古墳で貝輪の出土が知られている。4つの横穴墓群から出土したのはイモガイ横型貝輪であり、時期は6世紀中頃～7世紀前半である。櫛山古墳については従来横穴式石室または横穴墓とする2つの考え方がある。嶋田光一氏は最近櫛山古墳の再検討を行い、立地、形態、法量等からいわゆる初期横穴墓の可能性の強いことを指摘している¹⁰³。本稿でもその意見に従いたい。出土した貝輪は繁根木型a類で、年代は6世紀前半代と考



第461図 古墳時代の貝輪分布図 (番号は出土地名表に対応)

えられている。

次に筑後川水系流域では、塚堂古墳、宝満宮境内石棺、草場第二遺跡、北友田横穴墓群から貝輪が出土している。塚堂古墳は前方部と後円部に各1基の石室を持つ前方後円墳である。貝輪は前方部の横穴墓式石室に埋葬された壮年男性人骨の右上腕付近で内側を上にして検出された。形態は繁根本型a類である。石室の構造と副葬品より5世紀後半に比定される。宝満宮境内石棺は、筑後川を挟んで塚堂古墳の対岸に位置する。出土した貝輪は、塚堂古墳の貝輪と同形同類のものとされているので繁根本型a類と考えられるが、詳細は不明である。北友田は6世紀後半の横穴墓群で、イモガイ横型貝輪が副葬されていた。

遠賀川水系流域、筑後川水系流域とも6世紀後半を中心とする時期の横穴墓からはイモガイ横型貝輪が出土しており、これは周防灘沿岸部の状況と同じである。一方繁根本型貝輪は、遠賀川水系流域では5世紀後半の古墳から出土しているが、筑後川水系流域では6世紀前半代の初期横穴墓から出土している。しかし、櫛山古墳は年代的にも副葬品の内容からも他の横穴墓とは様相が異なり、むしろ被葬者の性格としては塚堂等に近いと考えられる。

3) 有明海周辺部

この地域では名木野古墳、長谷横穴墓、関行丸古墳、繁根本古墳、湯の口横穴群、瀬戸口横穴墓群、西迫間横穴墓、田川内古墳から貝輪が出土している。

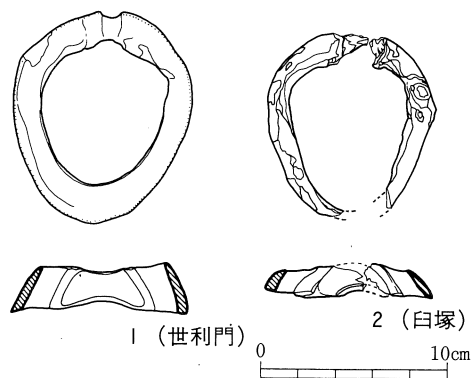
名木野古墳は調査報告された10基に消滅したものを加えると、本来13基の円墳が存在していたものと推定されている。6世紀中頃～後半の6号墳からはイモガイ横型貝輪が、5世紀後半の9号墳からは繁根本型a、b類貝輪2個が出土している。関行丸古墳は横穴式石室を持つ5世紀後半の前方後円墳で、繁根本型a類貝輪とイモガイ横型貝輪が発見されている。a類貝輪は出土位置より埋葬人骨の右手に装着されていた可能性がある。繁根本古墳は頂上に舟形石棺を持ち主体部として別に横穴式石室を持つ円墳である。貝輪は舟形石棺より検出され、形態は繁根本型a、b両類が認められる。時期は5世紀末である。3つの横穴墓群と田川内古墳からはイモガイ横型貝輪が発見されている。横穴墓の年代は6世紀後半を中心とするが、田川内古墳は6世紀前半～中頃と若干古い。

この地域でも、繁根本型貝輪は5世紀後半～末の高塚古墳から出土している。ただし、1つの古墳にa、b両類を伴う例は他地域にはみられない。またイモガイ横型貝輪はやはり6世紀後半前後の横穴墓に伴う場合が多いが、名木野などの古墳からも発見されている。

4) 豊後海部地域

この地域では高来山古墳、世利門古墳、白塚古墳、築山古墳で貝輪の出土が知られている。

高来山古墳は5世紀後半の横穴墓で、イモガイ横型と思われる貝輪が出土している。世利門古墳は5世紀中頃～後半の円墳である。主体部の石棺には初葬4、追葬4の計8体の人骨が埋葬されており、追葬人骨に伴う副葬品として繁根本型b類(第462図1)・イモガイ横型・イモガイ組合せ式貝輪が出土した。イモガイ横型貝輪は1958年の報告では鉄釧とされていたもので、1号人骨に伴うと考えられる。またb類貝輪は3号人骨に装着された状態で検出された。イモガイ組合せ式貝輪はイモガイの一部を長方形に切断し、四隅に小孔を開けそれを4個連鎖して輪となすもので、弥生時代には類例がある。3号または4号人骨に伴うと考えられる。築山古墳は2基の石棺(北棺・南棺)を持つ5世紀中頃の前方後円墳である。南棺には3体が埋葬されており、女性人骨の右腕にイモガイ横型貝輪が装着されていた。一方北棺の被葬者は壮年女性と推定されており、両腕に5個ずつの二枚貝製貝輪と右腕尺骨にイモガイ横型貝輪を装着していた。白塚古墳は後円部に大小2基の舟形石棺を持つ前方後円墳で、墳丘には短甲形埴輪の他に2基の



第462図 世利門・白塚古墳出土貝輪実測図
(江田豊、清原史代氏実測)

石製短甲がおかれている。大形棺の方から繁根木型 b 類貝輪（第462図2）とイモガイ横型貝輪が出土した。時期は5世紀前半～中頃である。

世利門、臼塚から出土したゴホウラ製貝輪をここでは繁根木型 b 類に分類した。他の b 類貝輪に比べると左右対称で、周囲の加工も丁寧である。また臼塚出土の b 類貝輪に直弧文が施されている点も注目されるが、そのほかの基本的な形態に差はないと思われる。この地域のイモガイ横型貝輪は繁根木型貝輪と共伴する場合が多く、横穴墓から出土した例は高来山古墳のみである。年代的には5世紀前半～後半に比定されており、6世紀後半前後の横穴墓から出土する他地域のものに比べると全体に年代が上がる。

5) 日向灘沿岸部

この地域では西都原110号墳、下三財月中、諏訪、大坪、稻荷馬場、高田原、市の瀬の各地下式横穴から貝輪が発見されている。

大坪地下式横穴からは繁根木型 a 類貝輪が出土している。副葬品も豊富で時期は5世紀末と考えられる。市の瀬地下式横穴では、1号と5号からイモガイ横型貝輪が出土した。5号には2体の人骨が埋葬されており、貝輪は2号人骨（壮年女性）の右腕に装着した状態で3個検出された。時期は5世紀後半～末である。

この地域で貝輪が出土したのは、西都原110号墳を除いてすべて地下式横穴墓である。しかし貝輪の形態や時期等不明なものが多い。年代のはっきりしている諏訪、大坪、市の瀬は共に5世紀後半～末に比定されており、6世紀代に下るものはない。

6) 霧島山麓周辺

この地域では菓子野、原村上、仮屋尾、日守、大萩、旭台、立切、東二原、小木原、島内、瀬ノ上、馬場の各地下式横穴で貝輪が発見されている。

菓子野57-5号には3体の人骨が埋葬されており、1号人骨（熟年男性）の左前腕骨にイモガイ横型貝輪8個が、3号人骨（熟年男性）の右前腕骨に繁根木型 b 類貝輪がそれぞれ装着された状態で検出された。時期は6世紀前後である。その他の地下式横穴はイモガイ横型形貝輪を伴う場合が多く、装着状態で出土した例も8基ある。時期は島内7号が7世紀後半におかれている以外は、5世紀後半～6世紀前半の間に集中する。また日守2号と旭台9号からはオオツタノハ製と思われる貝輪、日守5、6号からは二枚貝製貝輪が出土している。日守地下式横穴は時期比定の決め手に欠けるが、6～7世紀の築造とみられている。

地下式横穴からは横穴墓と同様主としてイモガイ横型貝輪が出土する傾向にある。しかし、時期的には5世紀後半～6世紀前半におかれる場合が多く、横穴墓より年代が上がる。

7) 大隅半島地域

この地域では神領古墳群、横間古墳群、上ノ原地下式横穴群で貝輪が発見されている。

神領古墳群は前方後円墳4基、円墳9基、地下式横穴4基が知られており、1号地下式横穴からイモガイ横型貝輪が出土している。横間古墳群は円墳8基、地下式横穴11基より成っている。貝輪は9号地下式横穴墓の副葬品であるが、貝種等は不明である。上ノ原9号からもイモガイ横型貝輪が出土している。いずれの地下式横穴も時期は不明である。

4 古墳時代出土貝輪の性格と特色

古墳時代貝輪はほとんどが、ゴホウラ製繁根木型貝輪とイモガイ横型貝輪の二種類であることは前に見てきたとおりである。

繁根木型貝輪が主に分布するのは、先に地域別検討で述べたように2) 北部九州内陸部、3) 有明海沿岸部、4) 豊後海部地域（以後便宜上2）、3）、4）と略す。）であるが、それぞれ様相が異なる。まず2）では5世紀後半の古墳から a 類のみが出土し、3）では5世紀後半～末の古墳において a 類のみ、または a、b 両類を伴う例が知られる。次に4）では、5世紀前半～後半の古墳から b 類のみが出土する。このようにみていくと4）が最も古い時期から繁根木型貝輪を有していたことになり、その後2）、3）に分布する段階で a 類貝輪が出現

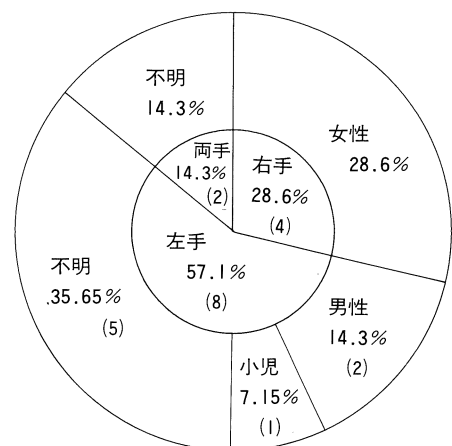
するという流れを想定できる。つまり地域的には4) → 2)・3)、形態的にはb類→a類という変遷を捉えられる。

ではなぜこの時期の九州に再びゴホウラ製貝輪が登場するのであろうか。木村幾多郎氏は、向野田古墳（熊本県宇土市）の車輪石埋納状況と塚堂古墳、関行丸古墳の貝輪出土状態の類似性、車輪石と繁根木型貝輪の形態的共通性等を上げ、「畿内勢力が九州地方に広く及んだ5世紀後半、車輪石の性格・イメージをゴホウラ製貝輪に求めたのではないか」と指摘している¹⁹。しかし、向野田古墳の年代は4世紀末～5世紀初であり、ゴホウラ製貝輪出土古墳との間に年代的空白が存在し、直接系譜を辿ることはできないとも述べている。今回、臼塚古墳（5世紀前半～中頃）出土の貝輪を繁根木型b類とすることによって、この時間的空白を埋めることが可能になった。しかも臼塚出土のb類貝輪には直弧文、イモガイ横型貝輪には碧玉製石釦を意識したとみられる櫛目文が施されており、宝器的色彩が強いことも伺われる。以上の点より、繁根木型貝輪の系譜を車輪石等の石製腕輪形宝器に求めるとすると、木村氏の考えを無理なく裏付けることが可能になった。

一方、イモガイ横型貝輪は古墳時代貝輪の分布するすべての地域から出土している。特に6世紀後半～7世紀前半の横穴墓と5世紀後半～6世紀前半の地下式横穴との結び付きは顕著である。前者は上ノ原Ⅲb～V期のいわゆる盛期横穴墓の時期、後者は上ノ原Ⅰ～Ⅲa期の初期横穴墓の時期に相当する。つまりイモガイ横型貝輪副葬という習俗を、時間的にみると地下式横穴被葬者→横穴墓被葬者、地理的にみると宮崎県・鹿児島県→有明海周辺部・北部九州内陸部・周防灘沿岸部という流れの上に捉えることができる。地下式横穴の盛行する地域においても6世紀後半～7世紀にかけて横穴墓が造られ始めるが、貝輪が副葬される例は現在までの所発見されていない。これは地下式横穴と横穴墓の被葬者の性格を考える上でも興味深い。

次にイモガイ横型貝輪の着装状況を見ると、比較的人骨の保存のよい地下式横穴で多くの例が観察できた。それをグラフに表したのが第463図である。性別まで判明しているのは6例で、これをみると女性はすべて右手に、男性は左手に着装していることがわかる。資料数が少ないためこれが全体的な傾向なのかどうかは今後類例を待って検討を加えたいが、これまで女性用とされていたイモガイ横型貝輪は、少なくとも古墳時代には性別に関係なく着装していたとみることができる。またこのように着装状態での検出例が多いということは、呪術的性格を有し宝器として埋納された繁根木型貝輪と異なり、イモガイ横型貝輪が主に装飾品として用いられていたことを示すとも考えられるのではないだろうか。

今回、立岩遺跡の報告書の中で三島格、橋口達也両氏が発表した南海産貝製腕輪の出土地名表を参考にしながら、その後の資料を加えることで古墳時代における貝輪の出土地名表を作成した。それに基づき古墳時代の貝輪についてその地域的、時期的、形態的特色等について考えてきた。しかし弥生時代に貝輪の盛行した地域が空白地帯になっている理由や、南海産貝伝播のルート等未だ未解明な部分も多く、これらを併せて検討していくことを今後の課題としたい。



第463図 イモガイ横型貝輪着装者の男女比

註

- 1 三島 格「弥生時代における南海産貝使用の腕輪」『日本民族と南方文化』 1968
- 2 三島 格・橋口達也「南海産貝輪に関する考古学的考察と出土地名表」『立岩』 1977
- 3 高倉洋彰「右手の不使用」『九州歴史資料館研究論集』 1 1975
- 4 木下尚子「弥生時代における南海産貝輪の系譜」『国分直一博士古稀記念論集 考古編』 1890
- 5 木下尚子「弥生時代における南海産貝製腕輪の生成と展開」『森貞二郎博士古稀記念文化論集』上巻 1982
- 6 橋口達也「腕輪・指輪」『弥生文化の研究』 8 雄山閣1987
- 7 齊藤 忠「貝釧と石釧」『考古学雑誌』 33-7 1943
- 8 木村幾太郎「所謂広田型貝輪の細分について」『史淵』 117 1980
- 9 註2に同じ
- 10 小川敬養「豊前国仲津郡発見ノ腕輪」『東京人類学会雑誌』 49 1890
- 11 註2に同じ
- 12 註6に同じ
- 13 嶋田光一「福岡県櫛山古墳の再検討」『児嶋隆人先生喜寿記念論集 古文化論叢』 1991
- 14 長崎県佐世保市宮の本遺跡
- 15 註8に同じ

文献 「古墳時代の九州出土貝輪地名表」の参考文献及び資料提供者

- 1 北九州市立考古博物館『北九州の横穴墓展』 1987
- 2 三島 格・橋口達也「南海産貝輪に関する考古学的考察と出土地名表」『立岩』 1977
- 3 竹並遺跡調査委員会『竹並』 1979
- 4 大任町教育委員会「狐塚古墳群」『大任町文化財調査報告書』 1 1976
- 5 田川市教育委員会「轟尾横穴墓群」『田川市文化財調査報告書』 5 1989
- 6 田川市教育委員会「狐ヶ迫横穴群」『田川市文化財調査報告書』 1 1981
- 7 栗崎山古墳群学術調査団「岡ノ浦横穴」『栗崎山古墳群』 1973
- 8 木村幾太郎「所謂広田型貝輪の細分について」『史淵』 117 1980
- 9 齊藤 忠「貝釧と石釧」『考古学雑誌』 33-7 1943
- 10 吉井町教育委員会「塚堂古墳」『吉井町文化財調査報告書』 1 1982
- 11 註8に同じ
- 12 瀬高町教育委員会「名木野古墳群」『瀬高町文化財調査報告書』 1 1977
- 13 註2に同じ
- 14 渡辺正気「佐賀市関行丸古墳」『佐賀県文化財調査報告書』 7 1958
- 15 註8に同じ
- 16 山鹿市教育委員会「湯の口横穴群」(Ⅱ)『菊池川中流域古墳・横穴群総合調査報告書』 3 1988
- 17 熊本県教育委員会「北上原古墳・瀬戸口横穴墓群」『熊本県文化財調査報告』 104 1989
- 18 松本健郎「資料熊本県横穴地名表」『熊本史学』 47 1976
- 19 熊本県教育委員会「熊本県装飾古墳総合調査報告書」『熊本県文化財調査報告』 68 1984
- 20 本報告書
- 21 杉崎重臣「木ノ上・高来山の横穴古墳」『考古』 1964
- 22 賀川光夫「五遺骸以上合葬の一例」『考古学雑誌』 44-1 1958
- 23 大分県教育委員会「中ノ原・馬場古墳緊急発掘報告」『大分県文化財調査報告書』 1 1968
- 24 大分県教育委員会「豊の国創世紀展」 1987
- 25 大分県教育委員会「草場第二遺跡」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書』 1 1989
- 26 註24に同じ
- 27 昭和55年大分県教育委員会調査
- 28 註9に同じ
- 29 都城市教育委員会「貝輪を出土する地下式横穴」「菓子野地下式横穴」『都城市文化財調査報告書』 3 1983
- 30 宮崎県考古学会・鹿児島県考古学会「地下式横穴墓からみた古墳時代」資料 1986
- 31 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 15 1970
- 32 註29に同じ
- 33 国富町教育委員会「地下式横穴墓玉類出土一覧表」「市の瀬地下式横穴墓群」『国富町文化財調査資料』 4 1985
- 34 国富町教育委員会「市の瀬地下式横穴墓群」『国富町文化財調査資料』 4 1985
- 35 都城市教育委員会「菓子野地下式横穴」『都城市文化財調査報告書』 3 1983
- 36 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 18 1976
- 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 19 1976
- 高崎町教育委員会「原村上地下式横穴墓群」『高崎町文化財調査報告書』 1 1987
- 37 註31に同じ
- 38 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 22 1980
- 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 23 1981
- 39 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 5 1960
- 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 27 1983
- 宮崎県教育委員会『大萩遺跡』(1) 1974
- 40 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 19 1976
- 41 宮崎県教育委員会 谷口武範氏の御教示による
- 42 小林市教育委員会「東二原地下式横穴墓群」『小林市文化財調査報告書』 2 1990
- 43 註31に同じ
- えびの市教育委員会「えびの市遺跡詳細分布調査報告書」『えびの市埋蔵文化財調査報告書』 1 1985
- 44 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 14 1969
- 宮崎県教育委員会『宮崎県文化財調査報告書』 16 1972
- えびの市教育委員会「えびの市遺跡詳細分布調査報告書」『えびの市埋蔵文化財調査報告書』 1 1985
- 45 註30に同じ
- 46 鹿児島県教育委員会 池畑耕一氏の御教示による
ジャパン通信社『月刊文化財発掘出土情報』 7 1990 5.1-31
- 47 註30に同じ
- 48 註30に同じ
- 49 註30に同じ

第193表 古墳時代の九州出土貝輪地名表

番 号	遺跡名・所在地	貝 種			出 土 状 態	着 装 状 態		被葬者(着葬者)の 年齢・性別・人数	時 期	遺 跡 の 性 格	その他の副葬品	備 考
		ゴホウラ	イモガイ			左	右					
			縦型	横型								
1	福岡県北九州市小倉北区 下到津八丁目横穴			1	玄室内			2 体	6 C 後半 ～末	横穴墓	刀子	
2	福岡県行橋市 馬ヶ岳横穴墓			1					6 C 後半	横穴墓	須恵器	
3	福岡県行橋市 竹並古墳 竹並横穴墓群 G-13-1 号 G-20-1 号 G-94-3 号 G-101号 H-11号 H-40号	5 (金隈型) ?		1 1 1 1 1 1				熟年女性 2 若年 1 成年男性 1 小児 1 6 C 末～ 7 C 初 6 C 後半 6 C 後半 6 C 中～ 後半 6 C 後半 6 C 後半			刀子、鉄鏃、玉類 須恵器、土師器 耳環 玉類 刀子、鉄鏃、貝片 須恵器 耳環	
4	福岡県田川市 狐塚古墳群 I-1 b 横穴墓			1				2 体	6 C 中頃 ～後半	古墳群 横穴墓群	耳環、玉類、須恵器	
5	福岡県田川市 轟尾横穴墓群 B-2 号			1	玄室内			壮年女性 1 成年不明 1	6 C 末～ 7 C 前半	横穴墓群	刀子、鞘金具、鐔 鉄斧、耳環、須恵器	
6	福岡県田川市 狐ヶ迫横穴群			2	玄室内				6 C 後半	横穴墓群	鉄鏃、刀装具、耳環	
7	福岡県飯塚市 岡ノ浦横穴 1 号			1	玄室内				6 C 中頃 ～後半	横穴墓群	鉄鏃、刀子柄、須恵器	
8	福岡県飯塚市 檀山古墳	1 (繁根木型 a 類)							6 C 前半	横穴墓	帯金具、鉄鏃、鉄刀 鉄鎌、鉄鏃、鉄斧 鉄鑿、刀子、馬具	
9	福岡県嘉穂郡稲葉町 漆生古墳			1 (不明)	横穴式石 室内					円墳	鏡、耳環、玉類、鈴釦 刀身片	
10	福岡県浮羽郡吉井町 塚堂古墳	1 (繁根木型 a 類)						壮年男性 1	5 C 後半	前方後円墳	甲冑、刀、鉾、鉄鏃 刀子、針金、馬具 仿製神獸鏡、白玉 滑石製有孔円板	右上腕付近より内 側を上にして検出
11	福岡県朝倉郡杷木町 宝満宮境内石棺	1 (繁根木型 a 類)									胸甲、刀、剣、槍 珠文鏡	
12	福岡県山門郡瀬高町 名木野古墳 6 号墳 9 号墳			1 2 (繁根木型 a、b 類)	横穴式石 室内 横穴式石 室内			6 体	6 C 中頃 ～後半 5 C 後半	円墳 円墳	鐔、斧、鋤先、馬具 耳環、管玉 鉄鏃、玉類	
13	福岡県山門郡瀬高町 長谷横穴墓 13号 20号			1 2					6 C 中頃 ～後半 6 C 中頃 ～後半	横穴墓群		

番号	遺跡名・所在地	貝 種			出土状態	着装状態		被葬者(着葬者)の 年齢・性別・人数	時期	遺跡の性格	その他の副葬品	備 考
		ゴホウラ	イモガイ			左	右					
			縦型	横型								
14	佐賀県佐賀市 関行丸古墳 第2 屍床 第3 屍床	1 (繁根木型 a 類)		1		横穴式石 室内			5 C 後半	前方後円墳	金銅製冠帽、珠文鏡 変形文鏡、刀子、鉄鏃 尖頭工具、鹿角柄、玉類	
15	熊本県玉名市 繁根木古墳	2 (繁根木型 a、b 類)				舟形石棺 内			5 C 後半 ～末	円墳	環頭大刀、直刀、剣	
16	熊本県山鹿市 湯の口横穴群 17-B 号			2		玄室内		1 体	6 C 後半	横穴墓	鉄鏃、刀子、馬具 耳環	
17	熊本県菊池郡七城町 瀬戸口横穴墓群 49号-b			1		玄室内		壮年 1、男性 1 女性 1	6 C 中葉 ～8 C 前 半	横穴墓		
18	熊本県菊池市 西迫間横穴墓			1 ?					6 C 末	横穴墓		
19	熊本県八代市 田川内古墳 1 号墳			5		横穴式石 室内			6 C 前半 ～中頃	円墳	刀、剣、斧、蔵手刀子 玉類	着装 ?
20	大分県下毛郡三光村 上ノ原横穴墓群 12号 22号 24号 62号 69号			2 2 1 1 1		玄室内 玄室内 玄室内 玄室内 玄室内		成人男性 1 + α 小児 1 成人男性 1	6 C 後半 ～7 C 初 6 C 後半 ～7 C 初 6 C 中葉 ～後半 5 C 末～ 6 C 中葉 6 C 末～ 7 C 前半	横穴墓	刀子、鉄鏃、耳環 須恵器 刀子、鉄鏃、耳環 銅釧、須恵器 刀、刀子、鏃、鉄鏃 馬具、玉類 刀子、鉄鏃、耳環 玉類、須恵器	(6 C 中葉～後 半)
21	大分県大分市 高来山古墳			1 ?				壮年男性 1	5 C 後半	横穴墓	珠文鏡、鉄刀、鉄鏃 鉄矛	
22	大分県大分市 世利門古墳	1 (繁根木型 b 類)		1	1 (イモガイ 組合せ式)				5 C 中頃 ～後半	円墳	鉄鏃、櫛	
23	大分県北海部郡佐賀関 町 築山古墳 南棺 北棺			1 1		着装 着装	○ ○	女性 1、不明 2 壮年女性 1	5 C 中頃	前方後円墳	振文鏡、刀、剣 鏃、刀子、鋤先 鎌、鏃、毛抜形鉄器、釵、 棒状鉄器、小玉 管玉	二枚貝は両腕に 5 個ずつ、イモガイ は右腕に着装
24	大分県臼杵市 臼塚古墳	1 (繁根木型 b 類)		1					5 C 前半 ～中頃	前方後円墳	舶載双龍鏡、四獣鏡、鉄 矛 短甲形埴輪	ゴホウラ製貝輪に は直弧文、イモガ イ製貝輪には櫛目 文を施す
25	大分県日田市 草場第二遺跡 97号石棺			1		着装 ?	○	小児 1	古墳前期	石棺墓	管玉	

番 号	遺跡名・所在地	貝 種			出 土 状 態	着 装 状 態		被葬者(着葬者)の 年齢・性別・人数	時 期	遺 跡 の 性 格	その他の副葬品	備 考
		ゴホウラ	イモガイ			左	右					
			縦型	横型								
26	大分県日田市 北友田横穴墓群			1					6 C 後半	横穴墓		
27	大分県竹田市 十一横穴			2	玄室内				6 C 中頃 ～後半	横穴墓	ガラス玉	
28	宮崎県児湯郡妻町 西都原古墳群 110号墳			1 (不明)						円墳	刀、剣、鏃、刀子、斧、 鏡、銅鋼	
29	宮崎県西都市 下三財月中地下式横穴 1号			不明						地下式横穴	鉄刀、鉄鏃、玉類	
30	宮崎県西都市 諏訪地下式横穴			6 (不明)					5 C 末	地下式横穴		
31	宮崎県東諸方郡国富町 大坪地下式横穴	1 (繁根木型 a 類)						2 体	5 C 末	地下式横穴	鉄刀、鉄剣、刀子、鏃 鉄斧、鋤先、獣形鏡	
32	宮崎県東諸方郡国富町 稲荷馬場地下式横穴			不明						地下式横穴	刀子、耳環、土師器 須恵器	
33	宮崎県東諸方郡国富町 高田原地下式横穴			不明						地下式横穴	玉類	
34	宮崎県東諸方郡国富町 市の瀬地下式横穴 1号 5号			2 ? 3	着 装		○	1 体 壮年女性 1 熟年男性 1	5 C 後半 ～末	地下式横穴	玉類 鉄剣、鉄鏃、鞘尾装具 鉄斧、鋤先、銅鏡、朱玉、 鉄刀	
35	宮崎県都城市 菓子野地下式横穴 57－5号	1 (繁根木型 b 類)		8	着 装	○	○	熟年女性 1 熟年男性 2	6 C 前後	地下式横穴	鉄鏃	イモガイ製貝輪は 左手、ゴホウラ製 貝輪は右手に着装
36	宮崎県北諸方郡高崎町 原村上地下式横穴 2号 4号 6号			12 1 8	着 装 玄室内 着 装	○ ○	○	壮年女性 2、 小児 2 壮年男性 1 壮年女性 1、 壮年男性 1 壮年女性 1、 熟年男性 1	5 C 末～ 6 C 初 5 C 後葉 ～6 C 前 葉	地下式横穴	鉄剣、鉄鏃、刀子、鉄釦 鉄剣 刀子	
37	宮崎県北諸方郡高崎町 飯屋尾地下式横穴 1号			1 (不明)				女 1、男 1		地下式横穴		
38	宮崎県西諸方郡高原町 日守地下式横穴 2 (54－2) 号 5 (55－1) 号 6 (55－2) 号			1 (オオツタ ノハ?) 4 (二枚貝) 16 (二枚貝)	玄室内 着 装 着 装	○ ○	○	3 体 壮年女性 1、 小児 1 熟年男性 1 熟年女性 1 壮年男性 1	6 ～ 7 C	地下式横穴	剣、鉄鏃、刀子 剣、鉄鏃 刀子、鏃、鋤先	

番 号	遺跡名・所在地	貝 種			出土 状態	着 装 状 態		被葬者(着葬者)の 年齢・性別・人数	時 期	遺 跡 の 性 格	その他の副葬品	備 考
		ゴホウラ	イモガイ			左	右					
			縦型	横型								
39	宮崎県西諸方郡野尻町 大萩地下式横穴 34－1号 B－13号 C－8号			2 18	2 (不明)	着 装	○	2 体 1 体 1 体	5 C後半	地下式横穴		
	F－3号 F－10号			1 1		着 装	○ ○					
40	宮崎県西諸県郡高原町 旭台地下式横穴 9号				8 (オオツタ ノハ?)	玄室内		壮年女性 1 熟年女性 1 熟年男性 2 小児 1		地下式横穴		
41	宮崎県西諸方郡高原町 立切地下式横穴群 38号 60号 64号				2 (不明) 5 (不明) 3 (不明)	着 装 着 装	○ ○ ○	不明 1、不明 4 子供 (20才未 満) 1 女性 2、不明 1 子供 1、子供 1 男性 1、不明 2	5 C後半 ～6 C前 半	地下式横穴	剣、鏃、刀子 剣、鏃、刀子	
42	宮崎県小林市 東二原地下式横穴墓群 8号			4		着 装	○	3 体	5 C末～ 6 C前半	地下式横穴	鉄剣、鉄鏃、刀子 鉄釧	
43	宮崎県えびの市 小木原地下式横穴 101号			6		着 装	○	3 体		地下式横穴	鉄刀、鉄剣、鉄鏃、鎗	
44	宮崎県えびの市 島内地下式横穴 5 (43－2) 号 7 (46－2) 号			3 4		玄室内		1 体 3～4 体	7 C後半			
45	鹿児島県大口市 瀬ノ上地下式横穴 9号				1 (不明)					地下式横穴		
46	鹿児島県始良郡吉松町 馬場地下式横穴 1号墓		1		着 装		○	成人女性 2	6 C代	地下式横穴		
47	鹿児島県曾於郡大崎町 神領古墳群 1号地下式横穴			2						地下式横穴	内行花文鏡、剣 骨製弁	
48	鹿児島県肝付郡高山町 横間古墳群 9号地下式横穴				1 (不明)					地下式横穴	馬具	
49	鹿児島県肝付郡高山町 上ノ原地下式横穴群 9号			2				1 体?		地下式横穴	蛇行剣、刀子 貝製ヘラ	